

國學院大學学術情報リポジトリ

近代日本における神道と功利主義および科学の関係
について：田中義能の神道思想を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-23 キーワード (Ja): 田中義能, 近代神道, 功利主義, 科学, 進化論 キーワード (En): 作成者: 山崎, 雄貴 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001670

論 文 要 旨

学籍番号	223101	氏 名	山崎 雄貴
論文題目： 近代日本における神道と功利主義および科学の関係について ——田中義能の神道思想を中心に			
(内容の要旨) 本論文では、神道学者の田中義能の神道思想を中心に、近代の神道家の神道思想、それによる功利主義批判、神道と科学の関係について論じる。第一章では、田中に関する伝記的記事と先行研究の状況を整理する。 第二章では、田中の神道論について、神道論、神学、道德論から論じる。田中はのいう神道は、神によって規範を示された道である。そして、政治・宗教・道德を含み、それらと対応する知情意を充足する。また、田中のいう神は、日本人の祖先や現人神であり、国民の模範となった人物である。そのため、神と人間、天皇とその他の人間を本質的には区別していない。また、明治末期頃から、汎神論的な造化三神論を展開し、神道を普遍的なものとしても説くようになる。 田中の道德論は、皇室国家の発展や忠を善悪の基準としており、天壤無窮の皇運を扶翼しようとする目的論である。大正期以降、田中の道德論は、造化三神に由来し、カントの定言命法や本居宣長の真心に相当する、真自我の概念によって、形而上学的に基礎づけられる。そして、真自我を個人主義的な肉体的自我と対置し、真自我や、その集合であり天皇＝日本の国家と同一である大自我の実現を善や目的とする、自我実現説を説くようになることを論じた。 第三章では、前章で見た田中の神道論や、同時代の神道家の議論を元に、当時の神道家による功利主義批判の要点を論じる。それは、快楽や功利は否定していないが、目的や最高善とすることは否定していること、公共性一般や特定の公共性があるかどうか、唯物論であり形而上学的なもの一般や特定の形而上学的なものを否定していること、日本の道德とは異なることの強調にある。 第四章では、前章までの議論に基づいて、田中や同時代の神道家の科学論について論じる。近代の代表的な神道家には、科学万能論や唯物論は否定しつつも、科学や科学知識は肯定する者がいた。それには生物進化論の肯定も含まれる。その上で精神や道德によって人間と動物を区別する神道家もあり、功利主義に対しては、そのように両者を区別しないことへの批判もあった。そして、その精神や道德は神道と結びついており、神道は生物進化論を肯定しつつ人間と動物を区別する側面もあった。また、田中は天壤無窮の神勅という日本国家の起源を重視しているが、人類の起源は問題としていない。 第五章では、田中が神道の科学と定義する神道学について、先行研究で特に問題とされている、近世国学との連続性を中心に検討する。そして、方法論には近世国学と違いがあり、ただちに連続しているとはいえないが、日本固有の道を神道として明らかにする理念においては共通していることを論じる。 全体的な結論としては、田中の神道論は天皇＝日本の国家を中心としており、それは科学の受容や古典の解釈にまで及んでいる。そして、その範囲でだが功利主義や科学を肯定し、生物進化論もそれに含まれていることを明らかにした。			
キーワード (5 語) 田中義能 近代神道 功利主義 科学 進化論			